

# ごぼう 御坊市



こぎく



ハマボウ



くろがねもち



日高別院

HPアドレス <http://www.city.gobo.wakayama.jp/>

## 市名の由来

「御坊市」は、1954（昭和29）年4月、御坊町・湯川村・藤田村・野口村・塩屋村・名田村の1町5村が合併して誕生しました。

1595（文禄4）年、それまではっきりとした地名もないような荒地に浄土真宗本願寺の坊舎「日高御坊」（現在の「日高別院」）が建立されました。

坊舎は、土地の人から「日高の御坊様」、「御坊所」と呼ばれ尊敬を集め、周辺には各地の特産物を扱う問屋などが軒を並べ大変栄えるようになりました。人々の信仰と繁栄の中で、いつしか地名も「御坊」となりました。

## 市章の由来

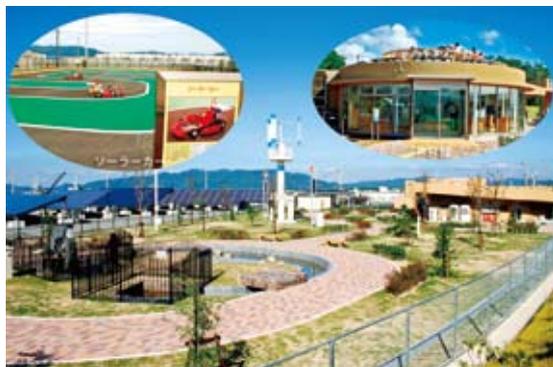
波型は「ごぼう」の頭文字を表し、水産業海運業の盛んなることを示し、▲型は木の国を表現して林産業の盛んなることを示しています。

## 市の紹介

御坊市は、和歌山県の海岸線のほぼ中央に位置し、市の北部には白馬山脈が、中央部には清流豊かな日高川が流れる「海・山・川」の自然に恵まれた地域です。日高川の河口付近では百数十種類の野鳥が飛来し、初夏にはハマボウの群生が鮮やかな黄色の花を咲かせます。さらに干潟は、シオマネキなどの希少生物の生息地で「日本の重要湿地500選」にも指定されています。

市内には、地名のおこりである日高別院をはじめ、歴史的に古くから人々が生活をしてきた足跡がいたるところに残されていて、日本最古の青銅製ヤリガンナの鋳型や多数の古墳が発見されています。また、長い黒髪が縁で奈良の都に上って文武天皇の妃となり、聖武天皇の御生母となった「宮子姫」の伝説も残されています。

御坊市は、昔から紀州材の集散・加工が盛んで、肥沃な平野では、米・麦・大豆・甘藷・綿などが生産され、江戸時代にはそれらを酒・醤油・酢・砂糖などに加工して「日高大廻船」で大坂、江戸へ運んでいました。明治時代末期から大正時代になると、製材所や紡績会社などの企業が次々と設立され、1931年には、御坊臨港鉄道（現：紀州鉄道）も営業を開始し、商工業が目ざましい発展を遂げ、日高地方の中心都市として発展してきました。また、農業・漁業も盛んで、特に農業においては県内でも有数の花き・野菜の産地となっており、スターチス・カスミソウ・スイートピーなどは全国屈指の出荷量を誇っています。



EEパーク

温暖な気候と自然環境に恵まれている御坊市では、オートキャンプ場や総合運動公園などの行楽・レクリエーション施設が整備されています。また、日高港内には太陽光・小型風力発電などの研究施設や展示などを行うPR施設、ソーラーカーコースなどを備えた公園施設を一体的に整備した、新エネルギー複合施設「日高港新エネルギーパーク」（愛称：EEパーク）があり、家族の憩いの場・子ども達の学習の場として利用されています。